

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (43)



～ 「行ってきます」・「行ってらっしゃい」 ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

「行ってらっしゃい。」「うん、行ってきます。」 大きなランドセルを背負った1年生をお母さんが温かいまなざしで見守っています。そのお母さんは、その子が角を曲がって見えなくなるまでずっと見守っていました。あるお父さんは、自転車を押しながら子どもと一緒に歩いて行きました。しばらくすると自転車で乗ったお父さんが戻ってきました。学校まで付き添い登校して、帰りは時間短縮のため自転車を利用していることが想像できました。これらは、春の交通安全立哨で見かけたどちらも微笑ましい風景でした。

新一年生の保護者にとって、子どもの登下校の安全は気になるものです。慣れるまでの間、付き添いや見守りをするご家庭も多いと思います。ぜひ、登下校の危険箇所や横断の仕方がわかり、人気のないところを避けるなど、お子様が安全に登校できるまで見守りを継続して欲しいと思います。

さて、普段何気なしに遣っている言葉「行ってきます」と「行ってらっしゃい」ですが、子どもや家族が出かけた時、出かける人にとっては「ちゃんとここに帰ってきます」という思いが、見送る人にとっては「無事に帰ってきて下さい」という祈りにも似た思いが込められています。

国語的にお伝えすると、「行ってきます」は、「行きます」と「帰ってきます」の2つの言葉を合わせた複合語で、「ある場所へ行くけれど、必ずここに帰ってきます」という思いが込められています。つまり、誰かに「行ってきます」と伝えることは、「出かけても必ず無事に家に帰ってきます」という気持ちを伝える言葉と同時に、待つ相手を心配させないような心遣いのある言葉でもあります。

一方、「行ってらっしゃい」は、「行く」と「いらっしゃい」の2つの言葉を合わせた複合語で、「出かけて行っても、無事に帰ってきて下さいね」という見送る人の思いが込められています。

同様に、「ただいま」「お帰りのさい」も大切な言葉です。「ただいま」は「ただ今この時間に無事に帰って参りました」で、「お帰りのさい」は「よく無事帰って来たね。よかったありがとう」という意味が込められています。

このように「行ってらっしゃい」・「行ってきます」・「おかえり」・「ただいま」は、家族の無事を願う思いが循環している素敵な言葉になります。日本は古代から言葉に宿る力「言霊（ことだま）」が働いて、その言葉どおりに成るという考え方があります。万葉集のなかで、山上憶良は日本のことを「言霊の幸（さき）わう国・言霊の扶（たす）くる国」～言霊によって幸福がもたらされ、言霊によって助けられる国と表現しています。

つまり、日常的に遣っている「行ってきます」・「行ってらっしゃい」の言葉は、心を込めて声に出すことで、大切な人の無事を願い守ることができるということです。

ぜひ、これからは、ご自身が出かける時、家族を送り出す時、「行ってきます」・「行ってらっしゃい」等の言葉を心を込めて遣ってみませんか。大切な人たちを守るためだけでなく、あなたの「相手を思う気持ち」がより伝わるのではないのでしょうか。

最後になりますが、毎朝、子どもたちの登校の安全を見守って下さっている各学校の子ども見守り隊や交通安全母の会の皆様、及び地域の皆様に心より感謝申し上げます。